299　小村寿太郎死去

〔『法学新報』第22巻1（249）号　明治45年1月1日〕

○小村侯薨去　前外務大臣侯爵小村寿太郎氏は久しく病を葉山の閑地に静養中なりしか去十一月二十六日遂に死去せらる氏は安政二年日向那珂郡本町に生れ貢進生として大学南校に在り菊池学長と同窓に学ひ共に選はれて米国留学生と為りハーバード大学に法学を修め帰朝司法官より外務書記官に転し翻訳局に勤務せらる当時吾校の創立せらるるあり穂積、岡村、増島、菊池等の親友諸氏と其教壇上の人と為り英米法を講せらるる数年学識深邃其講述頗る明晰にして規矩整然其講義を筆記せは自ら一大文章を成すとの称ありて学生の信頼する所たり翻訳局長に進まるるに及ひ公務漸く多忙と為り授業の担任を辞せられしも常に吾校を念とし事ある毎に来会せられ三十五年の卒業式には時恰も外務大臣たり臨席して講師卒業生と校庭に撮影し共に旧時を談せられしか其後或は病の為めに或は公務の為めに来臨の機なくして遂に白玉楼中の人と為らる今や外交益々多事なるの時

に際し至誠一身を国家外交に捧げらるる侯を喪ひたるは啻に余輩師弟の情誼に於てのみならす挙国民と共に哀惜の情に堪へさる所なり